

<平成30年度 ハローオリンピズム事業>

# オリンピック教室

実施報告書

宮城県 蔵王町立円田中学校





平成21年4月の学習指導要領の改訂以来、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されています。その中で、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容には、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」とオリンピックの意義が明示されています。そこで、JOCでは、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められており、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことのできない感動が生まれることを期待しております。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

また、「スポーツ基本法」の前文の一部には、「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習することで、この基本法に記された精神や態度が日常生活の中で具現化され、生涯にわたってスポーツに親しむことができるようになることを願っています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピアン自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピアンだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）  
※派遣オリンピアンはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成30年4月～平成31年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 60校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業



※学校の通常の授業時間をベースに実施  
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



## 1時限目

### 運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備運動（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介  
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動  
（作戦タイム等を受け、  
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

## 2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、  
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に  
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると  
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

### 座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用  
した自己紹介



オリンピック自身の経験に  
基づく「オリンピックの価値」等  
を伝える



グループ（個人）ワークで  
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

# 実 施 内 容

■期 日：平成30年9月6日（木）

■ク ラ ス：2年1組（35名）

■オリンピアン：荻原 健司 先生(スキー・ルディック複合)【出場オリンピックノアルペールビル大会、リレハンメル大会、長野大会、ソルトレークシティー大会】



■授業のながれ：運動の時間（1時限）

## 1. 自己紹介～授業の目的確認



## 2. 準備体操



・自己紹介の後、オリンピック教室について「オリンピアンが自身の経験と共にオリンピックとはどのようなものかを伝えていく場である」と説明。運動の時間では体を動かして楽しみ、座学の時間ではオリンピックの歴史等を学んでいくこと、運動の時間に行う主運動(そりりレー)について、黒板に画を書きながら説明。続いて、オリンピックシンボルとオリンピックバリューのパネルを貼り出し、3つの言葉を全員で読み上げ、その意味を紹介した。

## 3. 主運動



・そりりレー(6班対抗、全3回)を実施。①2人組になり、1人がそり(バスマット)の上に蹲踞の姿勢で乗った状態で紐を握る。もう一人は進行方向を向き、帯状の紐を腰に巻いて(引っ掛けて)引っ張りながら進む。②折り返し地点に設置したマーカーまで行ったら役割を交代してスタート地点に戻り、次の組へリレー、全組終了し、全員が座った時点でゴールとすることをルールとした。

## 4. まとめ



・今日は皆がしっかり話を聞いて、真剣に取り組んでくれたことが、とても素晴らしかった。お互いに協力し、思いやりを持って取り組んでくれたことで楽しい時間にする事ができた。次の座学の時間では、オリンピックについてさらに詳しく学んでいきたいと予告し、授業を終了。

## ■授業のながれ：座学の時間（2時限）

### 1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・最初に3つのオリンピックバリューを紹介。
- ・荻原先生が用意したパワーポイントを使用しながら授業を展開。オリンピックの問題に答えながらオリンピックについて考えてみようという授業の目的を確認。

### 2. オリンピックの価値を伝える



- ・オリンピックについてのクイズを通し、クーベルタンがなぜオリンピックを開催したのかを説明。
- ・オリンピズムはエクセレンス(卓越、ベストを尽くす)、フレンドシップ(友情、友だちをつくる)、リスペクト(敬意、尊重)の3つのオリンピックバリューから成り立っており、ルールを大切にしたり、お互いを思いやる気持ち、責任感を持つ人を育むのもオリンピックの目的と説明。
- ・オリンピックバリューは選手だけでなく、誰もが持てる精神であり、全ての人がオリンピズムを感じ、それぞれの日常を過ごすことで、美しい世界を作ることができる。国際平和を目指して始まったのがオリンピックであり、東京大会ではそのような点にも注目してもらいたいと話す。

### 3. まとめ



- ・これから大人になる過程で、さまざまな困難があると思う。その壁を打開していくために何より必要なのは、好きなものを持つこと。
- ・オリンピック選手とは、簡単に言えばそのスポーツが心から好きな人であり、だからこそ誰にも負けないように練習を重ねて強くなる。これからの人生の中で、自分の好きなものを見つけてほしいと伝え、授業終了。

■ 集合写真

2年1組



■ 記念品贈呈

2年1組



■ 修了証贈呈

